

(様式例2)

平成30年度 自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。
2 評価する領域・分野	◇教務部
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業の工夫、人権を尊重した言葉遣い、公平感について肯定的な回答をした生徒は約90%。 ・学習の評価、個に応じた指導、少人数授業での評価は、90%近くが高評価であった。 ・「揖斐Basic」や「総合的な学習の時間」を有意義な時間と感じている評価は82%であった。 ・保護者の評価では、HPでの情報発信や学校行事についてよくわからないと回答した割合はここ3年増加傾向で16%であった。 ・中高一貫行事について、中2体験は体験してよかったと回答した生徒が100%と高評価で、本校を理解するきっかけとなった。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎・基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫ある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な学習の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上 4 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信(HP、携帯連絡網メール配信システム) (2) 活字メディアによる情報発信(学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・教科書選定委員会 ・補助教材選定委員会 ・情報公開検討委員会 ・総合的な学習推進委員会 ・学習成果発表会実行委員会
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 年間指導計画の作成依頼、集約 学期末、授業改善への取組の検証及び反省 の記録の依頼集約 (2) 連休課題等を早めに配布することで、学習 習慣の確立への支援を行うことができた。 (3) 「授業改善研修会」の実施 (4) 学校設定教科「デュアル実習」の実施推進 (5) 情報セキュリティ意識の向上 (6) メール配信システムへの登録状況向上 (7) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など) 新聞記事の許諾申請・掲示 (8) 町教委、連携中学校、本校と連携行事 (中高一貫教育事業)の調整	(1) 年間指導計画の作成に関して各教科への確に依頼で きたか。 (2) 適切な配布時期で実施することができたか。 (3) 授業改善にむけて、テーマに合わせた研修が実施で きたか。 (4) 計画的に推進し、成果をあげることができたか。 (5) チェックシートを通して意識の変革ができたか。 (6) 登録者が100%となったか。 (7) HPの更新、新聞記事の掲示など情報発信が滞りな くできているか。 (8) 前年度出た課題について、改善しながら進めること ができたか。

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①年間指導計画の作成依頼・集約と学期末授業改善のための反省記録の依頼集約</p> <p>②学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに配布</p> <p>③「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流</p> <p>④「デュアル実習」の指導</p> <p>⑤チェックシートの提出と確認の徹底</p> <p>⑥配信メールの登録と帰宅確認訓練の実施</p> <p>⑦HPの更新、記事の掲載及び許諾申請の提出などの実施</p> <p>⑧連携行事のスムーズな運営</p> <p>⑨他分掌との連携と学校行事の遂行</p>	<p>①各教科に的確に依頼できたか。</p> <p>②適切な配布時期に実施できたか。</p> <p>③授業改善に活かせることができたか。</p> <p>④指導計画通り実践できたか。</p> <p>⑤セキュリティ意識が向上したか。</p> <p>⑥登録者数と回答率が向上したか。</p> <p>⑦更新頻度。すみかやな記事の掲示ができたか。</p> <p>⑧課題を解決しながら運営できたか。</p> <p>⑨学習支援、教科・分掌との連携ができたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>①○年間指導計画の作成に関するマニュアルを作り、適切な時期に各教科に依頼ができた。 ○年間授業計画についてマニュアル化することができた。来年度から生徒に配布していきたい。</p> <p>②○長期休業課題を保護者懇談時に配布し、早期に知らせることができた。 ▲課題の調査が遅れ気味で、切間近になってしまった。</p> <p>③○授業改善週間を設定し、研修をすることができた。 ○他教科の授業参観をすることで、見識を広めることができた。 ▲アンケートの結果を反映させるための効果的な方法を見出せなかった。</p> <p>④○様々な生徒が取り組んだが、実習を通して社会性が身に付き、成長した姿を見ることができた。今年度は6名が、食品製造、建設、医療、社会福祉施設の現場で実習を積んだ。 ▲次年度、実習を希望する生徒の数によっては、受け入れ先を探すのが大変である。</p> <p>⑤○チェックシート回答率の向上を目指した。</p> <p>⑥○帰宅確認を年に2回実施し、登録の確認も複数回行った。 ○登録100%を目指して呼びかけを行い、生徒に登録が必要であるという意識がでてきた。</p> <p>⑦○HPや新聞記事を更新し、見やすいHPづくりを目指した。 ▲通信などの更新が遅れることがあった。各担当者から早めに情報をいただける呼びかけをしたい。</p> <p>⑧▲中高一貫教育などの活動について地元への広報活動に力を入れていきたい。</p> <p>⑨○各分掌や学年に新しい取り組みや、突然のお願いをすることが多かったが、協力していただき、学校行事を遂行することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画、授業計画について職員へ早めの作成依頼と確実な集約 ・基礎学力の定着にむけて、家庭学習や連休課題などの効果的な取組 ・授業改善の啓蒙と実施目的の周知徹底。授業改善をより良いものとする方法の検討 ・デュアル実習の希望調査時期の検討と地元企業の開拓 ・情報セキュリティに対する意識向上に向けて日常的に呼びかけ、指標などの作成 ・行事などの情報を配信。未登録者の定期的なチェック及び登録への個別対応の実施 ・広報活動として、HPの効果的な活用について検討 ・中高一貫校として行事内容の精選をし、中学生へのPR方法の工夫 ・行事の際の教務内の役割分担などを再考し、他の分掌や学年と連携のあり方を検討 		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「迷惑調査」と「教育相談週間」については、年間3回実施している。今年度は「いじめ」の訴えが3件（12月末現在）あった。3件とも、SNSを介してのトラブルが発端である。情報モラルに関する講話や集会を定期的実施するとともに、自己理解や他者理解の力を育てる取組は今後も検討していく必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基本的な生活習慣確立の徹底 (1) 欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 (1) 交通安全指導 (2) 生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成 3 規範意識の醸成 (1) ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 (2) 問題行動の未然防止に努める (3) SNSの活用改善に向けての指導		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会 ・いじめ防止対策委員会 ・人権教育委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 校門あいさつ指導 (2) 通学路立哨指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発、養老鉄道乗車指導	(1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・学年団による校門あいさつ指導、生徒による挨拶活動、MSリーダーズによる交通指導などは協力も得られ実施している。 ・通学路立哨指導は通学路の見直しを含め年度・月当初に実施しており、鉄道乗車指導は定期的に行っている。 ・交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も、全校生徒対象に実施している。	① 遅刻者数増加（958→1346） 欠席者数増加（1984→2365） ② 交通事故増減なし（7→7） （自動車同乗事故1件含む） ③ 問題行動件数増加 （学校反省）32(13)→46(23) 2月28日現在	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○MSリーダーズによる交通事故啓発は活発化され、全校集会での報告、自転車交通安全推進大会での報告も良いものとなった。 ▲転退学者数は昨年より増加した（昨年度16→今年度2月28日現在17）。精神的な悩みを抱える生徒が多くみられるため、自己有用感を高める指導を学校全体で取り組んでいきたい。 ○心に不安を抱えている生徒が多くおり、不登校傾向の生徒が欠席を繰り返している。しかし、中には遅刻しても登校しようとする生徒や、別室から出て授業を受けに行ける生徒もいた。 ▲交差点での一旦停止違反が多く、交通マナー指導の強化が必要である。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・新入生に対する適応指導を充実させる。 ・いじめ未然防止についての研修の機会をもつ。 ・情報モラルに関する問題点を丁寧に説明する機会を多く設ける。			

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からは3つの項目とも90%以上の肯定的な評価を得ているが、「将来の進路決定、自己実現のための指導」については昨年度と比べ肯定的な評価が低くなっており、代わりに「不明」という評価が増加している。 ・保護者からは3つの項目とも80%前後の肯定的な評価を得ているが、昨年度と比較すると、10%程度低くなっている。生徒を対象とするアンケートの評価に比べると、肯定的な評価が低くなっている。特に「将来の進路決定、自己実現のための指導」では否定的な評価が10%と大きくなっている。 ・生徒から評価と保護者からの評価を比較すると、保護者からの評価が低くなっている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎学力の定着 (2) キャリアアンカーの発見による進路実現 (3) コミュニケーション能力の育成 (4) 個に応じた進路実現 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年学年会 ・総合的な学習推進委員会 ・企画委員会 ・職員会議 ・校内選考会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 「揖斐Basic」(1年生)の実施 (2) 「1分間スピーチ」(2年生)の実施 (3) 「面接指導」の実施(3年生) (4) 「一般常識対策学習」(3年生)の実施 (5) 「進路ガイダンス」(全学年)の実施 (6) 「公務員・進学補習」(3年生)の実施 (7) 「デュアル実習」(3年生)の実施 (8) 「進路希望調査」(全学年)の実施 (9) 「進路相談会」(3年生)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業における取り組み状況、課題考査、認定テストによる評価 (2) 原稿作成時の取り組み状況、発表会における自己及び他者による評価 (3) 本校職員による評価、外部講師による評価、生徒同士による評価 (4) 授業における取り組み状況、課題考査による評価 (5) 参加時の生徒の様子への評価、生徒の感想に対する評価 (6) 参加時における取り組み状況による評価 (7) 実習における取り組み状況、参加者の感想反省による評価 (8) 進路希望の状況による評価 (9) 進路に対して、方向性を決めることができたかどうか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ① 「揖斐Basic」を実施し、基礎学力の育成と定着を図った。 ② 「総合的な学習の時間」に『1分間スピーチ』の原稿作成及び発表会を実施した。(2年生) ③ 「総合的な学習の時間」及び放課後等に面接時の作法の説明、本校教員及び外部講師、PTA役員による面接指導を実施した。 ④ 「総合的な学習の時間」に一般教養の教材を利用した演習を実施した。 ⑤ 「進路ガイダンス」を実施し、講演及び学校見学等を実施した。 ⑥ 放課後に外部講師を招いて希望者に対し「公務員・進学補習」を継続的に実施した。 ⑦ 「デュアル実習」を週1回年間20回継続的に実施した。 ⑧ 進路希望調査を年2回実施し、担任の進路指導に役立てた。 ⑨ 11月に全就職未決定者に対し、進路指導担当者による進路相談を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の取り組みの状況及び確認テストの結果 ② 原稿作成の取り組み状況及び作成した原稿の評価、発表会での評価 ③ 面接時の指導者による評価 ④ 演習時の取り組み状況及び一般教養テストの結果による評価 ⑤ 参加時の取り組み状況及び、生徒アンケートによる評価 ⑥ 補習への取り組み状況による評価 ⑦ 本校職員及び受け入れ企業、参加生徒による評価 ⑧ 保護者懇談会など、調査結果を有効に活用できたかどうか。 ⑨ 応募先を決められたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ② <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ③ A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ④ A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ⑤ A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ⑥ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ⑦ A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ⑧ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ⑨ A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
11 成果 ○「揖斐Basic」を実施することで、中学時の学習内容の復習・確認ができた。これにより、高校での学習のための基礎・基本の定着を図ることができた。○「1分間スピーチ」の準備及び発表会を通して、生徒の表現力やコミュニケー	総合評価	

<p>・課題</p>	<p>シジョン能力を高めることができた。また、発表会時には、他の生徒の発表を聞き評価することで、聞く姿勢を高めることができた。</p> <p>○「進路ガイダンス」参加により、大学・短大・専門学校の様子や学習の様子を知ることができた。</p> <p>○「公務員・進学補習」においては、公務員希望者に対し、専門学校より講師を招き、1月～9月まで継続的に補習を実施することができた。実践的な補習により、公務員試験の対策を学ぶことができた。</p> <p>○年間計画にはなかったが、「オール岐阜・企業フェス」に2年生の一部のクラスが参加した。企業の担当者から直接仕事について聞くことで、進路意識を高めることができた。</p> <p>▲「1年生オリエンテーション」や「PTA総会」の際や学年通信などを通して「キャリアアンカー」の発見の重要性を伝えているが、重要性は理解できても日頃の日常生活の中では継続的に意識付けができない。</p> <p>▲全職員による面接指導を行うことで、進学・就職に向け実践的・効果的に面接練習を行っている。しかし、一部の生徒においては面接練習の重要性を理解しても、自主的に職員に面接練習を依頼してくる姿勢が乏しかった。</p> <p>▲11月には就職未決定者に対して進路相談会を実施し、生徒の希望や意識等を聞き、個に応じたアドバイスを行っているが、生徒の進路意識と現実の溝が埋まらず、希望の進路実現に苦慮した。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路適性検査を2年生で実施することで、自らの適性を知り進路意識を高めさせる。さらに、これを通して、自らの「キャリアアンカー」の発見につなげさせる。 ・2年生全クラスを「オール岐阜・企業フェス」に参加させることで、多くの企業の担当者から話を聞き、進路意識を高めさせる。 ・2年生に対し「公務員・進学補習」への積極的な参加を呼びかけ、参加者を増やすことで、実践的な学力を高め、生徒の進路実現を図る。 ・1年生の「揖斐Basic」において、学力不振者に対する補充は、授業担当者により放課後等に実施しているが指導の在り方を検討する。 ・「揖斐Basic」の教材を、生徒の学力にあわせて見直しを行う。 ・外部で実施される「オープンキャンパス」、「学校説明会」へ積極的に参加を促すことで、生徒の進路意識を高め、進学先の決定につながるよう早期に準備を開始する。 ・就職希望者において、多様な希望を持つ生徒へ対応するため、ハローワークとの連携を図り、早期の進路決定を図る。 		

2	評価する領域・分野	◇特別活動部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動、生徒会活動に関する問に対する肯定的な回答は、生徒が約8割で例年と同じ程度の数値となった。 「学校は学校行事や生徒会活動で、生徒に自己実現する場を設けている」の問に対する保護者の肯定的な回答が昨年度は9割を超えていたが、今年度は8割をやや下回った。原因を追及し改善したい。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。 		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。 各委員会顧問との連携。 各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討 (3) 1年生の部活動の全入制の継続。部の活動状況の広報 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 新入生が部活動を継続できているか。 		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施 委員会活動への参加を促し、新しい取り組みの検討 部登録カードを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。 ② 生徒の委員会活動への参加状況。 ③ HRTと部顧問との連携がなされたか。 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11	成果・課題	○生徒会執行部員は文化祭、体育祭の企画運営や各委員会の活動、ボランティア活動に責任を持って取り組めた。 ○生徒会用掲示板を利用して、委員会活動を生徒に紹介することができた。また全校集会の場では工夫を凝らした情宣活動ができた。 ○揖斐川町の行事へ生徒会のボランティアについては例年同様参加した。 ▲生徒の委員会活動参加状況は概ね良好であるが、活動に対する積極性は十分でない。また新しい企画・取り組みの立案が少なかった。 ○1年生で部活動を61%の生徒が継続して活動できた。		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部からの情報発信（広報活動）を効果的に行い生徒の生徒会への意識を高める。 文化祭・体育祭では、生徒がより積極的、自主的に活動できるよう働きかける。 文化祭クラス企画に多様性をもたせ、内容がより質的に向上するように働きかける。 部活動に継続的に参加し積極的に活動する姿勢を培う。 		

2	評価する領域・分野	◇保健安全	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食事等の生活習慣が確立されておらず、学校生活に影響している生徒がいると推測される。 ・校内美化に関して、最低限の自己の責任は果たしている。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康保持の意識づけと自己管理能力の向上 2 事故の未然防止と非常変災時に備えた訓練の実施 3 健康的な環境整備と保全 	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に関する指導 [保健指導] ・校内の安全点検。各種訓練の実施 [学校安全指導] ・生徒による清掃活動の指導 [環境整備] ・学校保健安全委員会 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 健康診断及び事後指導。保健指導 (2) 安全点検。命を守る訓練。職員AED講習会 (3) 美化委員会清掃活動 		<ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機関受診率の向上。保健室来室者の変化 (2) 不具合箇所の減少。訓練取組状況の向上 (3) 清掃の取組状況の向上
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種健康診断の実施及び事後指導。保健指導 ・命を守る訓練等による、非常変災時に備えた行動体験と意識の啓発 ・美化委員がクラスの美化活動の中心となることを目標にした各種作業の実施 	<ol style="list-style-type: none"> ① 健康診断後の再検査等、事後指導の結果が向上したか。 ② 訓練や講習会に取り組み、意識や行動が向上したか。 ③ 美化委員を中心に校内美化が向上したか。 	10 評価
			A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11	成果・課題	総合評価	
	<p>○歯科指導、第2回歯科検診を実施（抽出生徒のみ）し、一部の生徒の意識変容に繋げることができた。治療受診率は28.1%で、昨年より増加した。</p> <p>○予告なしの訓練や、様々な場面を想定（放課後・緊急地震速報）した訓練を実施して、非常変災時の啓発を行った。（「命を守る訓練」は今年度4月、9月、11月、1月の計4回実施した。）</p> <p>▲各検診後の受診勧告については、今後一人一人の詳しい状況を確認し、受診必要度が高い者に対しては、対面指導を実施していきたい。</p> <p>▲美化委員会による美化推進の方法をさらに講じる。</p>	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> ・視力検査及び歯科診断後の治療受診率が50%以上になるよう、対象の生徒と保護者への通知や対面での保健指導を強化する。 ・自己判断して行動する能力を育成することを目標にした命を守る訓練を実施し、取組結果を生徒にフィードバックして防災意識を高める。 ・2年生対象のDIG（災害図上訓練）は自身の地域や生活と結びつけ、身近問題として考えられるように工夫して継続実施する。 ・美化委員会による掃除状況の点検や学校敷地内清掃活動を継続し、全校生徒の美化意識を育成する。 		

2 評価する領域・分野	◇図書渉外																						
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携として、 文書わかりやすく伝えている。 78% 確実に届けられている。 74% ・PTA等の徴収金について詳細に公表している。 77% ・一斉メールサービスは有効に活用されている。 88% 以上、保護者から肯定的評価をいただいた。																						
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの内容を改善する。 ◇保護者への迅速な情報提供として、HPやメール配信システムを有効活用する。 ◇同窓会・PTAと連携して100周年記念事業の準備を推進する。 ◇魅力ある図書館づくり 豊かな心を育む「読書センター」、主体的に学ぶための「学習情報センター」として、魅力ある図書館づくり 																						
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会 ・同窓会理事会、同窓会総会 ・100周年記念事業実行委員会 ・図書館運営委員会 																						
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																						
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討する。 (2) メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用する。 (3) 生徒の興味を引きつける図書館広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) PTA活動の協力度、役員会議の意見など各会議への参加協力など (2) 同窓会理事会、100周年記念事業実行委員会 (3) 貸出冊数の増加 																						
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																					
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討した。 ・メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用できた。 ・同窓会理事会を2回開催した。 ・100周年記念事業実行委員会を2回開催した。 ・専門学科の資料の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTA支援活動等への保護者の協力人数 ② PTA役員の各会議や行事の進捗状況 ③ 同窓会関係の会議や行事 ④ 100周年記念事業 ⑤ 学習支援教科・分掌との連携 	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D
A	Ⓑ	C	D																				
A	Ⓑ	C	D																				
A	Ⓑ	C	D																				
A	Ⓑ	C	D																				
A	Ⓑ	C	D																				
11 成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員の協力により、各会議や行事が円滑に進んでいる。 ・校門挨拶運動：年間9回実施し、毎回10名程度が参加した。 ・部活動支援活動：PTA役員15名が参加した。 ・体育祭支援活動：PTA役員6名が参加した。 ・文化祭支援活動：PTA役員と一般の保護者22名が参加した。 ○外部の会議、研修会等にも多数の参加があり、PTA活動に対する理解が得られている。 ○同窓会関係も継続して行事が引き継がれ、軌道に乗っている。 ▲メール配信システムなどを利用し、保護者への連絡やお知らせ等を行っているが、各行事への参加者が固定化されてきている。 ○授業利用が91時間。他の図書館からの借用資料数は125冊。 ○地域連携活動を盛んに行い、例年同様、各種行事へのボランティアに参加した。 		総合評価 A Ⓑ C D																				
12 来年度に向けての改善方策案																							
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員の負担を軽減するため、年間計画を見直す。 ・100周年記念事業実行委員会の意識の高揚を図り、具体的な計画を立てできるものから実行に移していく。 ・今後も、一斉メールサービスを活用し、配布物等についても連絡を入れる。 ・生徒の興味を引きつける図書館広報活動の方策の検討 ・保護者対象の企業・大学・専門学校見学会を企画する。 																							

2 評価する領域・分野	◇ 専門部 (生活環境科)		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	授業アンケートより ・80%前後の生徒が授業内容に、ほぼ満足しているという結果だった。 ・授業後、更に学びたいと思う生徒が少ない。自主的に勉強している生徒が少ない。→考えさせる場面を多くとる。家庭生活に結び付ける指導を工夫する。 ・自主的な学習を行う生徒が少ないため課題を出している→定期的に小テスト等を実施するなど工夫する。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 学習指導方法の改善、「わかる授業」「さらに学びたいと思う授業」の展開 2 「生きる力」「考える力」の育成 3 地域交流・連携の促進 4 コンクールや検定への挑戦で技術力向上 5 学習成果発表会の成功		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・家庭科会議での意思統一と情報交換 ・各分掌・各学年との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 目標の明確化とわかる授業の工夫 (2) 授業後の課題、長期休暇・連休課題の提出 (3) 幼稚園、中学校、特別支援学校、高齢者施設への実習やボランティア活動の充実 (4) 検定・コンクールへの挑戦 (5) 学習成果発表会に向けて継続的な取組、中間発表等による評価	(1) 目標達成についての生徒による自己評価 (2) 提出物の評価 (3) 生徒の振り返り、地域からの意見により判断 (4) 3年間で被1級・食1級・保2級合格。コンクール入選 (5) 事後アンケートの集計結果		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・「わかる授業の工夫」を各自で研修した。 ・未提出物をなくすための粘り強い指導をした。 ・科目「課題研究」「子どもの発達と保育」等で各コースの特徴を活かした実習に取り組んだ。家庭クラブではボランティア活動を実践した。 ・検定やコンクールの指導を放課後や早朝に実施した。 ・外部講師による講習会を実施した。介護職員初任者研修を継続した。	①生徒の自己評価、授業アンケート ②提出物の状況 ③実習後の感想・反省の内容、施設からの聞き取り結果 ④検定の合格率、コンクール入賞者 ⑤生徒の感想、テストによる評価	A (B) C D A B (C) D A (B) C D (A) B C D (A) B C D	
11 成果・課題	▲提出物の期限内提出率が悪い。→未提出者の継続的な指導をする。 ○行事を実施後ホームページに掲載し、PRを充実させた。 ○「魅力豊かな高校づくり推進事業」での活動を実施し、地域とのつながりが深まり実習やボランティア活動を充実させることができた。しかし、台風の影響で一部ボランティアを中止した。 ○地域との連携を意識して、商品開発を行い、積極的に試食会や販売をし、商品化に向けて活動した。 ○地域交流センター<はなもも>にて、生徒が活躍できる場をもつことができた。(学習成果発表会や青少年町民育成大会等) 生徒は生き生きと活躍でき、地域からよい評価をいただいた。地域に根ざした揖斐高校を更にPRしたい。 ▲専門科目で学習した内容が就職、進学先に活かされていないので、開拓していく必要がある。→外部講師との情報交換をし、開拓する。 ○検定に意欲的に取り組み、多くの生徒を合格させることができた。(合格率: 和服1級54%、和服2級92%、洋服1級71%、食物1級83%、食物2級68%、洋服2級100%、編物2級86%など) ○コンクールへ積極的に応募した。全国ホームプロジェクトコンクールでは、最優秀賞に輝いた。その他にも18名が入賞を果たした。 ○教育課程研究指定校事業にてホームプロジェクトの指導の充実を図った。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・新学習指導要領を意識し、計画実践し、授業改善に努める。 ・教員の技術習得をめざし、科内での研修会を実施し研鑽を積む。 ・学習成果発表会への取り組みをさらに円滑なものにする。 ・地域に根ざした揖斐高校の活動を継続実施する。ただし、行事の精選が必要である。		

2 評価する領域・分野	◇第1学年		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや服装が良くなってきている。朝の校門挨拶や、きめ細かい指導、声かけを継続していく。 ・「家庭との連携で学校からの連絡文書等は、保護者（地域）に確実に届けられている」という項目に肯定的な回答の割合が低い。生徒に指導する必要がある。 ・「学校の施設設備が、学習環境の面で満足できる」という項目に肯定的な回答の割合が低い。普通教室にクーラーなど設備を充実させる必要がある。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な社会マナーを身に付けさせる。 2 仲間と協調しながら、充実した学校生活を送れるよう図る。 3 学習習慣を確立すると共に、基礎学力を獲得させる。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部と連携し、問題が生じた際に迅速に対応した。 ・定期的に学年会を実施し、職員間で共通理解に努め、学習指導、生徒指導を実施した。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ol style="list-style-type: none"> (1) ベル席の徹底 (チャイムと同時に授業を始める) (2) 学び直しの科目としての揖斐Basicを計画的に確実に取り組み、基礎学力を獲得させる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業開始のチャイム前に教室に入り、生徒観察を行う。 (2) 長期休業中の課題提出状況。定期考査、課題テストの得点結果 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や時間厳守、言葉遣いなどの社会性の育成と情報モラルに関する指導 ・行事への活動支援と生活、身だしなみ指導 ・授業などの学習への取り組みと揖斐Basicによる基礎学力の定着 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の状況観察と情報収集 ②学校行事などの取り組み状況の検証、生徒の状況観察 ③学習への取り組み状況の検証、定期考査などの成績状況 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>	
11 成果・課題	<p>○朝読書を10分設定することで、落ち着いて学校生活が始められた。2年次も継続して朝読書の時間を充実させていきたい。</p> <p>○年度当初はSNSによるトラブルなどが多かったが、学年集会やクラス単位の指導を継続的に行うことで、後期はこれらのトラブルが減少した。</p> <p>▲高校生活に向けていない生徒に関しては、細かく記録するとともに、家庭との連絡を密にする必要がある。</p> <p>▲長期休業中の学力補充が完了しない生徒がいる。粘り強く指導し、最後まで取り組ませる。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やSNSの利用、情報に関するモラル・マナーなど、トラブルが多くなる前に学習する機会をもつ。 ・挨拶、服装や学校の規則など、規律ある生活を送らせるため、新入生オリエンテーションでの指導徹底を図る。 			

2 評価する領域・分野	◇第2学年																					
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの文書だけでなくメール配信で学校の様子を把握できる。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしている。 ・教室を中心とした環境整備（空調）を行う必要がある。 ・保護者は教職員の姿勢に肯定的な評価をしている。 																					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな心の育成（社会適応力を身に付けさせる） 2 学習習慣の確立（授業態度の見直しと家庭学習の充実） 3 キャリア教育の推進（具体的な目標の設定） 4 規律ある生活の確立 																					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会で共通理解を図る。 ・各分掌と連携をとり、迅速な対応を心掛ける。 ・正副担任と教科担任と連携を図る。 																					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校行事に主体的に取り組み、集団の中での役割を自覚させ、協調性を養う。 (2) LHRや学年集会等で、社会で必要とされるルールやマナーを身に付けさせる。 (3) 学力の定着を図るために、未提出物調査などを実施する。 (4) 進路ガイダンス等を効果的に活用し、自分の進路について考える機会を増やす。 (5) 携帯電話の回収 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会活動や部活動の参加状況 修学旅行アンケート結果 (2) 出席状況、身だしなみ検査結果、ファイル指導などの状況観察、情報交換 (3) 未提出物調査、生徒の状況観察、情報交換 (4) 進路調査、個別懇談、企業フェスタへの参加 (5) 朝読書前に実施 																					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	評 価																				
<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の資質に応じた能力の育成 ② 修学旅行での事前指導 ③ マナー指導による社会性の育成 ④ 課題の提出状況の把握 ⑤ 大学見学会や進路ガイダンスを実施し、進路研究を推進 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事への取組状況の検証 ② 生徒観察、情報収集 ③ 身だしなみ検査、生徒観察 ④ 定期考査などの成績把握 ⑤ 生徒観察、情報収集 	<table border="0"> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓑ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	Ⓐ	B	C	D	Ⓐ	B	C	D	Ⓐ	B	C	D	A	Ⓑ	C	D	Ⓐ	B	C	D
Ⓐ	B	C	D																			
Ⓐ	B	C	D																			
Ⓐ	B	C	D																			
A	Ⓑ	C	D																			
Ⓐ	B	C	D																			
11 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーとして責任ある仕事に意欲的に取り組む生徒が見られた。 ○修学旅行では、事故や規律違反はなく、時間通り行動できる姿が見られた。生徒の大きな成長を見ることができた。満足度の高い研修となった。 ・ ○朝読書を落ち着いた雰囲気で行うことができた。 ○進路学習では、積極的に参加し、自らの進路研究に前向きに行えた。 ▲課題の提出期限を守れない生徒への指導を継続したい。 																					
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌や教科担任とのさらなる連携を密にとり、生徒一人一人に見合った指導を行う。 ・進路実現に向け、学力の向上とともに社会で必要とされる力を身に付けられるよう指導していく。 																					
11 課題	<table border="0"> <tr> <td colspan="4">総 合 評 価</td> </tr> <tr> <td>Ⓐ</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		総 合 評 価				Ⓐ	B	C	D												
総 合 評 価																						
Ⓐ	B	C	D																			

2 評価する領域・分野	◇第3学年																	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの文書がきちんと保護者に渡っていない。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしているが、教員にたいして疑問を抱いている生徒もいる。 ・教室を中心とした環境整備をもっと行う必要がある。 																	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の推進と進路実現の達成 2 社会で生きる力の育成 3 最高学年としての自覚・態度の育成 4 連携・協力体制に基づく指導 																	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・正担任・副担任そして教科担任・部活動顧問との連携 ・校務分掌との連携 																	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業を軸にして基礎的な学力をつけ、基本的な生活態度の育成を可能にする指導 (2) 「総合的な学習の時間」・LHR・放課後等を活用して進路目標を達成する指導 (3) 朝読書の充実 	<p>*すべての項目において生徒の観察以外に、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 成績概況、課題の提出状況、出欠状況、退学・転学者数、迷惑調査、身だしなみ検査、ファイル指導等の観察 (2) 面接指導報告書、生徒同士の練習状況、正・副担任を中心とした教員との情報交換 (3) 8：35から10分間の朝読書の実施 																	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																
<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科担任との情報交換と連携 (2) 家庭との連携・学年団での統一指導 (3) 面接・作文の指導、懇談、情報提供 (4) 部活動や学校行事などへ積極的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績概況、教科担任による評価 ・出欠状況、身だしなみ ・進路達成状況 ・学内外からの評価 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
11 成果・課題	<p>○進路決定に向けて、積極的に面接指導などを行うことが出来た。公務員希望の生徒の補習の効果などもあり、多くの生徒が警察・消防の一次試験を突破することが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路達成状況（3月1日現在）：就職決定99%、進学決定100% <p>▲進路決定後、遅刻が著しく増加した。学校に通う意義をもう少し学年集会などで浸透させる必要があった。</p>																	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>年度当初に前学年担当職員との情報交換を密に行う。職員間の情報交換の機会をもっと多くする。</p>																	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に関しては、試合に出るだけが目的ではないので、日常的な活動で生徒が満足できるような環境を整えてほしい。 ・生徒が交通事故に遭った現場や保護者の送迎時の事故について、原因や今後の対応について検討し、生徒に周知したり、改善を要求したりしてほしい。 ・生徒に達成感や充実感をもたせるボランティア活動のあり方について検討していただきたい。 ・「生徒、保護者を対象とするアンケート」の結果、低下している項目について検討し、来年度の取組に反映してもらいたい。 ・デュアル実習は揖斐高校の魅力のある取組である。生徒の体験発表も、実習した内容や身に付いた力を自信をもって話していた。今後も発表原稿の書き方や話し方等のスキル指導を手厚く行っていただきたい。 ・この「学校評価」が、評価のための評価にならないように、今一度重点目標と取組、評価の指標を検討し、具体化するとよい。 ・遅刻者、欠席者が増加したことについて分析をし、指導のあり方を検討するとよい。 ・自転車通学の生徒が一旦停止をしないなど、交通マナーがよくない生徒がいる。登下校の生徒の実態を把握し、有効な交通安全指導につなげてもらいたい。
